

シナリオ2：市民と事業者の連携に基づくリデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル型

【キーワード】 生活様式改善、発生抑制・再使用重視、ごみ処理費次第に減少

【社会イメージ】 無駄なものは買わない、ものは大切に使うなど、現在の生活や事業活動の様式をちょっと改善すればできることから順次、市民・事業者自らが取り組みます。行政が備えるべきごみ処理設備は、焼却中心から厨芥類のバイオガス化によるガス発電など資源循環型へと移行し、順次、有機性廃棄物は非焼却に向かいます。残ったごみについては、焼却により適正に処理します。市民自らが自覚を持って取り組むことが必要で、事業所も自主的努力が必要です(税金ではなく汗を!)。物の消費量は減少するが、修理・再使用などのサービスや、価格は高いが長く使える逸品の生産・販売などにより、産業の活力は維持・増強されます。

➡市民と事業者が連携して3R(リデュース(発生抑制) リユース(再使用) リサイクル)を実施し、行政がこれを調整・支援します。なお残ったごみは行政が非焼却型を基本に最大限度リサイクルすることで対応します。

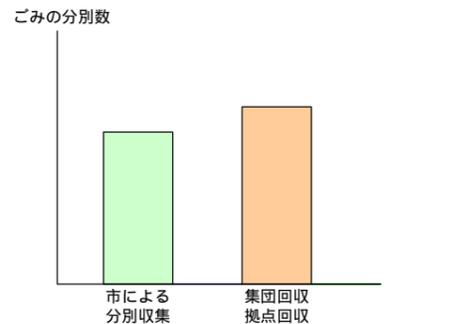
言わば 市民と事業者の連携に基づくリデュース(発生抑制) リユース(再使用) リサイクル型

市民の皆さんの取り組みは？

お店では包装の少ない商品、リターナブル容器を使った商品や詰め替え商品を買うなど、積極的にごみや環境を考えた買い物をします。家電製品や家具などを買う場合は、長く使えるかどうかといった視点が重要になります。

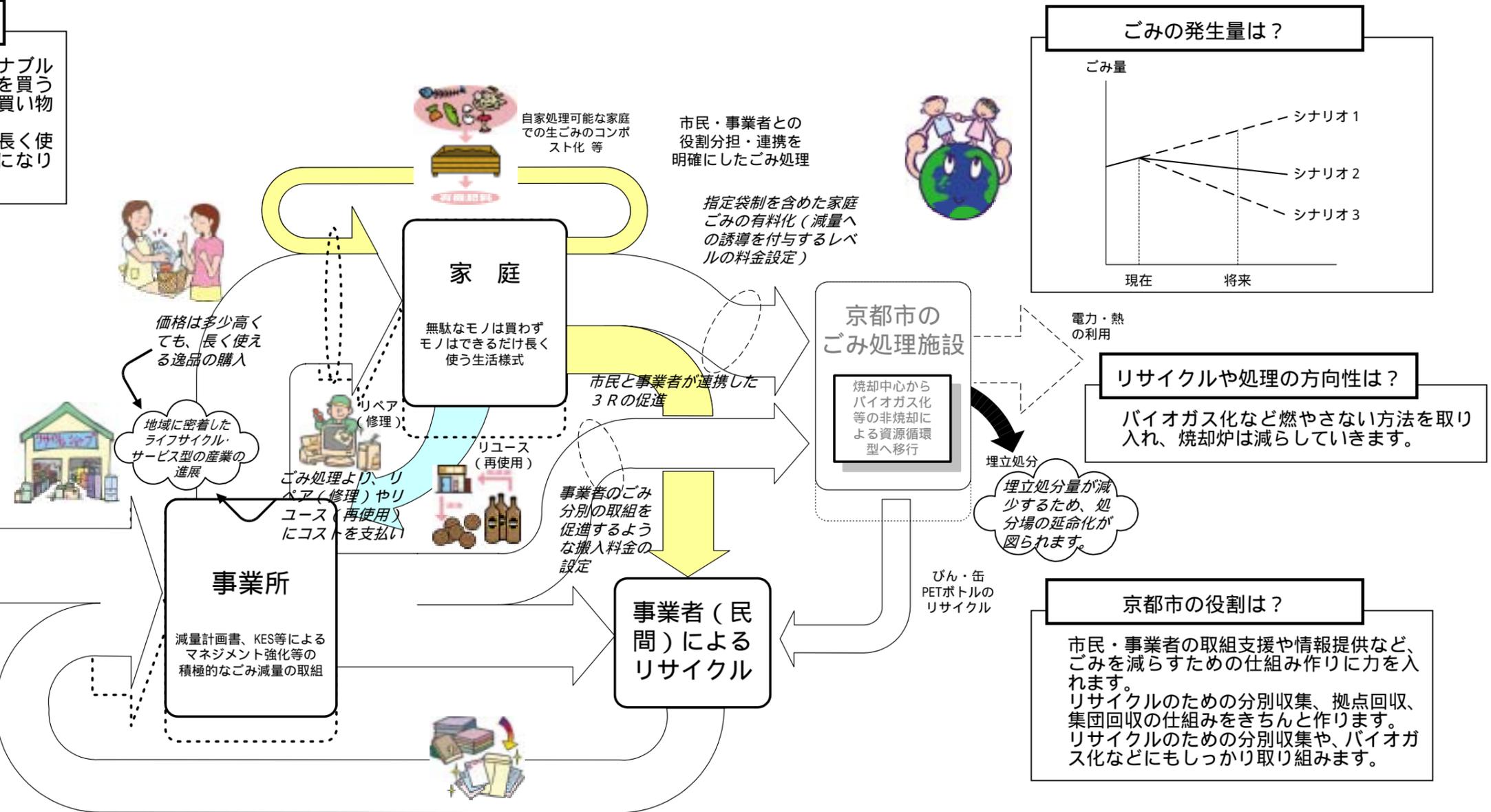
家庭での分別は？

びんも色ごとに分けるほか、古紙やトレイ、乾電池など約20品目程度に分別します。容器や生ごみは市の分別収集に出します。そのほか古紙や古着、乾電池やリターナブルびんなど10品目以上は、集団回収に出すか、それぞれのお店に持っていきます。

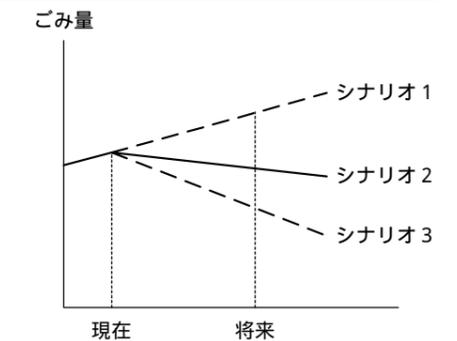


事業者の皆さんの取り組みは？

古紙利用率の高いコピー用紙を購入し、できるだけ使用量を減らしたり、食堂であれば食べ残しの少ない料理の提供を工夫するなど、積極的にごみや環境を考えた事業活動を行います。市民の皆さんがトレイやペットボトル、びんなどを持ち込める回収拠点としての役割も果たします。



ごみの発生量は？



リサイクルや処理の方向性は？

バイオガス化など燃やさない方法を取り入れ、焼却炉は減らしていきます。

京都市の役割は？

市民・事業者の取組支援や情報提供など、ごみを減らすための仕組み作りに力を入れます。リサイクルのための分別収集、拠点回収、集団回収の仕組みをきちんと作ります。リサイクルのための分別収集や、バイオガス化などにもしっかりと取り組みます。